

飛鳥・奈良時代

(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

飛鳥・奈良時代とは、各地で古墳を築いていた有力氏族が、分有していた土地・人々を天皇のもとに結集し、中央集権国家の樹立をめざした時代です。

飛鳥時代には、大化の改新や壬申の乱などがあり、氏族間に反発と動揺がありましたが、これを収めることによって律令体制を確立していきました。

その過程で仏教が大きな役割を果たしました。初め氏族は古墳に変わった権力の象徴として、盛んに寺院の造営を行ないます。しかし、奈良時代には国分寺の造営の詔が各国にだされ、仏教は「法主護國家」の思想を実現するものとなりました。その結果、各氏族の造営した寺院も、律令体制に組み込まれていきました。

この時代の土地は、国郡里制に

より分割され、中央の役人である国司・郡司によって地方を支配していました。山背国には、葛野郡・くのじ愛宕郡・乙訓郡・紀伊郡・宇治郡・うじ久世郡・綏喜郡・相楽郡の8つの郡があり、その下に郷と里が配置されました。

ここでは京都市域の発掘調査で確認された寺院を中心に、瓦窯などの生産遺跡にもふれながら、郡別にみてていきましょう。

葛野郡 渡来系氏族の秦氏が強大な勢力を誇っていました。『日本書紀』によると、推古11年(603)聖徳太子から仏像をさずかった秦河勝が蜂岡寺を建立しました。この寺は「葛野の秦寺」とよばれ、現在の太秦広隆寺につながります。ここに祀られている国宝第一号の「弥勒菩薩半跏思惟像」がこの時の仏像とされています。

『広隆寺縁起』によると、もとは九条河原里と荒苑社里にまたがる場所にあった寺が、寺域拡大のために五条荒苑里に移転したことが記されており、この旧寺地に飛鳥時代の瓦が出土した北野庵寺をあてる説があります。

北野庵寺では、講堂跡や築地などを確認し、寺域南西部には瓦を焼いた窯がみつかっています。さらに、瓦は岩倉幡枝町にある元福荷瓦窯でも生産されました。なお、境内からは、弥生時代から古墳時代の遺構や飛鳥時代の堅穴住居なども確認され、寺の建立以前のようすも明らかになりました。

渡来系氏族である高麗氏との関係が深い櫻原廃寺では、地下式心礎をもつ八角形の瓦積基壇の塔や門・回廊・築地を確認しています。瓦窯は寺城南方にある櫻原廃寺瓦

略年表

古墳時代		飛鳥・白鳳時代		奈良時代		平安時代	
588 飛鳥寺を建立する	601 延喜式の造営を始める	645 大化の改新	663-667 672 壬申の年が起る 近江大和高に遷都 北村江の戻りで放れる	694 藤原京に遷都	710 平城京に遷都	733 奈良遷都記帳作成 唐に京に遣都	781-784 長岡京に遷都 桓武天皇即位する
北野天守	法隆寺	櫻原廣寺	出雲寺跡 法觀寺 藤原寺 大石寺 乙訓寺 北白川廣寺	おせんどう廣寺	法隆寺	南宮町の高寺	早宮京に遷都
北野造跡	小倉可別当可造跡	中臣造跡					800年

窓と西側で確認されたものと 2 箇所あります。

愛宕郡 外來の秦氏や高麗氏の勢力が及んでいきましたが、出雲氏・鴨氏・日置氏など在地の氏族たちも各郷内で勢力を広げています。

はじめに北白川庵寺についてみてみましょう。この寺は栗田郷に所在し、栗田氏の氏寺に想定する説があります。段丘で東西に段差がある地形の関係から寺域が東西に分かれています。東方の伽藍では南北辺の中央に石組みの階段をもつ瓦積基壇建物、西方伽藍では、最初は瓦積であったものを後に石積の基壇に改修した正方形の塔基壇（写真 2）・溝・築地などを確認しています。瓦は北白川庵寺瓦窯の他、岩倉盆地に点在する瓦窯から供給されていたことがわかつています。

周辺には寺との関係が考えられる小倉町別当町遺跡があり、住居跡が発見されています。

出雲郡には、出雲氏の氏寺と推定される出雲寺跡があります。発掘調査は進んでいませんが、境内

の立会調査で出土した瓦から、西賀茂の蟹ヶ坂瓦窯で生産されたことがわかりました（写真 1）。

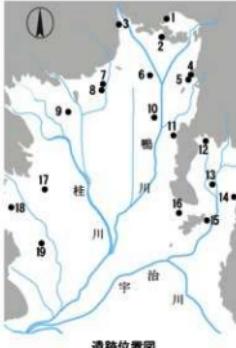
八坂郷には渡来系氏族八坂造によって法觀寺が建立されました。室町時代に再建された塔が残っており、「八坂の塔」として親しまれています。

折田郷土車里には頂法寺が建立されました。聖徳太子によって杉の巨木で創建された六角堂は、平安京造営時に条坊の邪魔になったので一夜のうちに自ら五丈も移動したという説話を伝えています。

宇治郡 山科盆地では、須恵器の窯跡が数基確認されており、日ノ岡堤谷須恵器窯跡を昨年発掘調査しました。周辺には陶田里という条里名が残っており、須恵器の生産者集団の生活の場であったことや、中臣鎌足の邸が陶原の家と称されていたことから、中臣氏との関係が深かったことがうかがえます。

中臣氏の山階寺、または大宅氏の大宅寺に想定されている大宅庵寺では、石積基壇・掘立柱建物などを確認しています。

このように有力氏族によって在地の開発が積極的に進められていました。しかし、奈良時代末期に桓武天皇は強化した仏教勢力を嫌い平城京を廃都にしました。そして理想とする新しい律令国家の樹立をめざして、都を平城京から長岡に移しました。そして、「山背」の国名を「山城」に改めるなど、平安京誕生の準備が着々と進められていきました。（桜井 みどり）



遺跡位置図

- 1 元船荷窑跡
- 2 深泥池瓦窑跡（ケシ山窑跡）
- 3 蟹ヶ坂瓦窑
- 4 北白川庵寺・瓦窑跡
- 5 小倉町別当町遺跡
- 6 出雲寺跡
- 7 北野遺跡
- 8 北野庵寺・瓦窑跡
- 9 広隆寺
- 10 頂法寺
- 11 法觀寺
- 12 日ノ岡堤谷須恵器窯跡
- 13 中臣遺跡
- 14 大宅庵寺・瓦窑跡
- 15 法琳寺跡・瓦窑跡
- 16 おうせんどう庵寺
- 17 楊原庵寺・瓦窑跡
- 18 南春日町庵寺
- 19 乙訓寺



写真 1 蟹ヶ坂瓦窑（東から）



写真 2 北白川庵寺西方伽藍の塔跡（北から）